

風力発電タワー 本格製造へ

いわきの
会川鉄工

国内初、専門工場完成

風力発電の風車部分を支える「タワー」の本格製造に向け、会川鉄工(いわき市)が国内初のタワー製造専門工場として同市のいわき四倉中核工業団地に建設を進めていた新工場が完成し、12日に現地で落成式が行われた。

同社は、新工場を拠点に「メイド・イン・いわき」の風力発電施設の製造を軌道に乗せ、阿武隈山系での風力発電計画や洋上風力発

電など国内外からの受注を目指す。浜通りの産業再生を後押しする福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想で再生可能エネルギー関連産業の集積が一步前進した形だ。

同社は原発や火力発電所

向けの製品開発を手掛けているが、東日本大震災の津波で工場が被災。東京電力福島第1原発事故が転機となり、風力発電などの再生エネ関連産業に力を入れている。

新工場では、従来の小型



あいさつする会川社長

(高さ約20メートル)に加え、中型(高さ約40メートル、直径2・6メートル、200トン)、300トン(超級)と大型(高さ約100メートル、直径4・3メートル、3が超級)の風力タワーを製造する。地元を中心に約15人を新規雇用した。60ト用のクレーンを2基導入し、イ

タリア製とトルコ製の最新の加工機器を配備した。建物は鉄骨2階建てで、敷地面積約1万8100平方メートル、延べ床面積2280平方メートル。総事業費は約10億円。国の津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金を活用した。

式では約140人を前に会川文雄社長が「皆さまの協力を得ながら福島、浜通り、いわきの再生エネ産業の先頭に立って一步一歩前進したい」と決意を述べた。安達和久県商工労働部理事、鈴木典弘副市長らと共にテープカットした。



風力発電タワーを製造する会川鉄工の新工場